



## 調査報告

### 季節前線シギチドリ

守屋年史

昨年に引き続き、今春も4月初旬から、シギ・チドリ類の初認調査をおこないました。昨年は48名、今年は50名の方に173例のご報告をいただきました。多数の情報をお寄せいただき、ありがとうございました。

対象の7種(ムナグロ、メダイチドリ、キョウジョシギ、トウネン、キアシシギ、アオアシシギ、チュウシャクシギ)の今春の渡りの状況を、昨年の結果と合わせて報告します。

#### 春の気温変化

まず、今年と昨年の4月の気温変化の目安を示すために、気象庁の気象統計情報から、平均気温15℃ラインの分布を作図しました(図1)。昨年は4月中旬に近畿付近で停滞したものの、4月末には東北・北海道の一部まで15℃ラインは北上していました。今年、4月初めには九州南部に15℃ラインが到達していましたが、初旬から中旬は奄美大島付近まで後退し、4月末の時点では関東太平洋側・北陸付近までしか北上しませんでした。今年、暖かくなるのが早かった一方で、進みは昨年よりも遅いようでした。

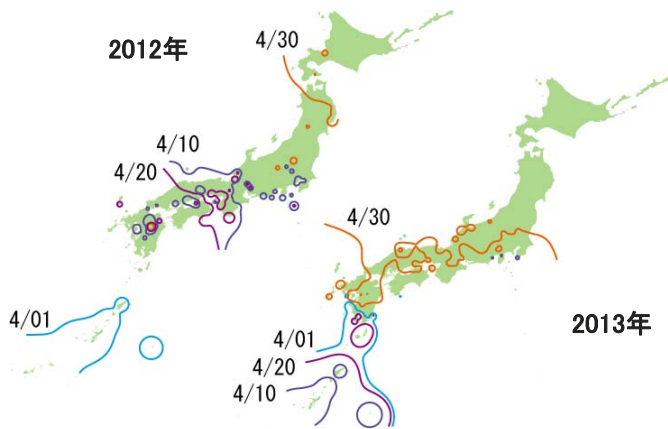


図1. 2012年と2013年の4月における平均気温15℃線の分布。

#### 季節前線Mapづくり

記録の中から初認記録地点を地図上にプロットし、初認記録ごとに4月1日を1として5/31まで、通し番号をふりました。各地点の通し番号を標高と見なすと、早ければ低く、遅ければ高くなります。それらの地点間の値を補間し、な

だらかな山脈になるようにして、その等高線を描きました。等高線は日付を表します。以下の各種の季節前線では5日ごとに示しています。

#### 7種の渡り状況

##### ■メダイチドリ -動き出しが早い-

渡りの最初の頃に現れる。兩年とも、近畿・中部地域よりも関東地域での初認が早い傾向がある。2012年では、4/15ラインは中四国・関東の一部地域でみられたが、2013年は東北地域にも至っており、渡来が早い傾向があった。2013年は2012年より4月初めが暖かったため、その影響と考えられる。

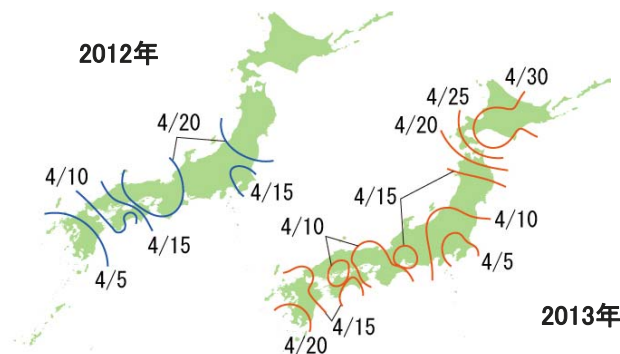


図2. メダイチドリの2012年と2013年の季節前線。

##### ■ムナグロ -内陸も移動、気温の影響受けやすい?-

毎年、南西諸島で大きな越冬群が観察される。2012年、2013年とも、関東以西の太平洋側では、ほぼ同時期に初認された。兩年とも東南北部地域での初認時期は一致していたが、北海道南部は、2012年が4/20ライン上であった一方で、2013年は東北北部、北海道地域でやや遅い傾向がみられ、気温の影響を受けている可能性がある。

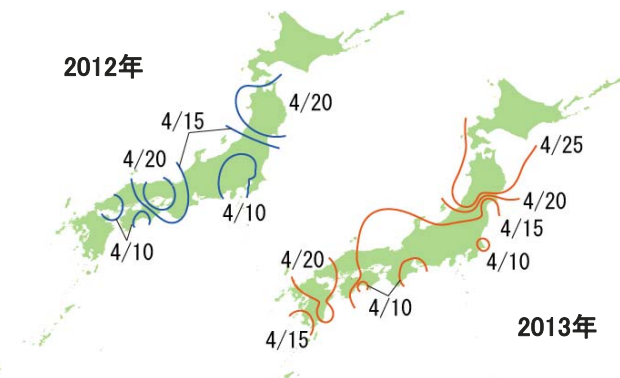


図3. ムナグロの2012年と2013年の季節前線。

# 調査報告

## ■キョウジョシギ -けっこう北でも冬を越す-

北海道西部への渡来は同時期だったものの、2013年では、それより先に北海道東部で確認されている。東北でもやや2013年の北上が早く、全体的に2013年の移動は早かったと考えられる。

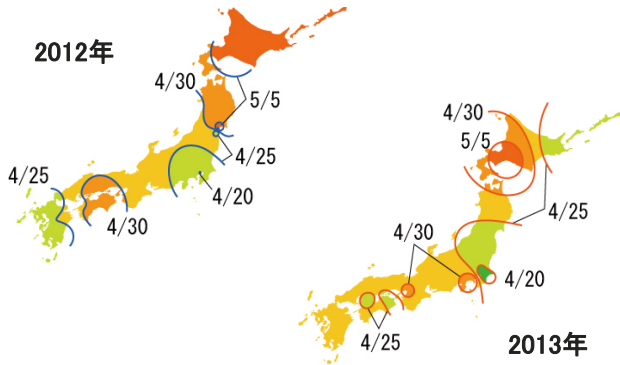


図4. キョウジョシギの2012年と2013年の季節前線。

## ■トウネン -ちょっとずつ渡る？-

個体数が多く、渡りの期間が比較的長い。2012年、2013年ともほぼ同時期に関東地域で確認されていたが、2013年の4/30ラインは、北海道地域に至っておらず、2012年と比較して、北日本で渡来が遅い傾向だった。気温の影響を受けている可能性がある。

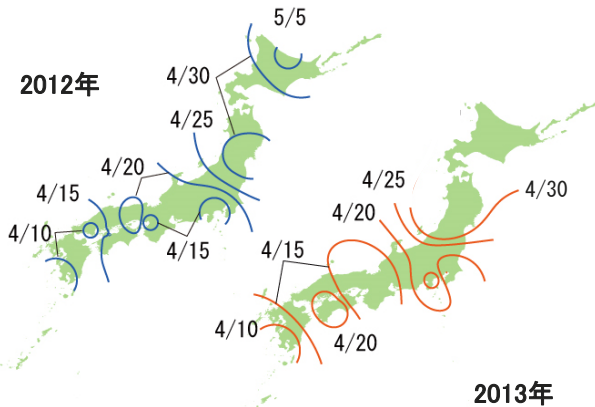


図5. トウネンの2012年と2013年の季節前線。

## ■チュウシャクシギ -遅いけど一息に渡る-

他のシギに比べて初認される時期は遅いが、短期間で北海道まで移動する。4/20ラインは、2012年では東北地域

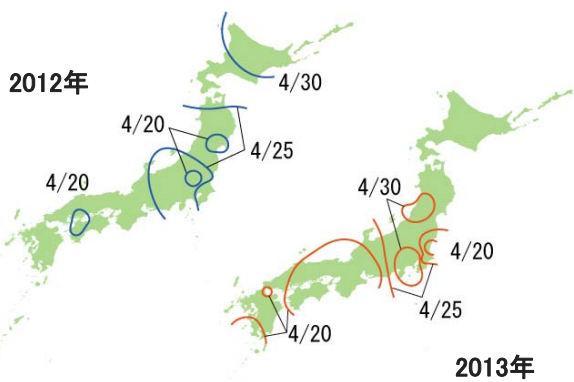


図6. チュウシャクシギの2012年と2013年の季節前線。

まで到達していたが、2013年は北関東地域までであった。しかし、4月末には両年とも北海道南部で初認されている。

## ■キアシシギ -遅くにやってくる-

シギ類の中では渡り始めが遅い傾向がある。2012年では4/25ラインが近畿・関東の一部地域、4/30ラインが東北地域に至っていたが、2013年では、4/30ラインは中部・関東・東北の一部地域までにとどまり、関東以南では渡来が遅い傾向があった。

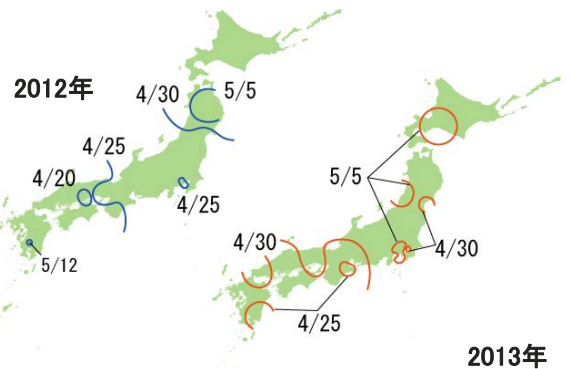


図7. キアシシギの2012年と2013年の季節前線。

## ■アオアシシギ -越冬に注目-

2012年、2013年とも関東以西で越冬しており、初認と判断できるデータが少なかった。関東地域以北で見ると、2013年の仙台湾での確認は、2012年よりも2週間程遅く、渡来は遅かったと考えられる。冬期の気温に関連して、越冬分布が変化するかの指標として注目していきたい。

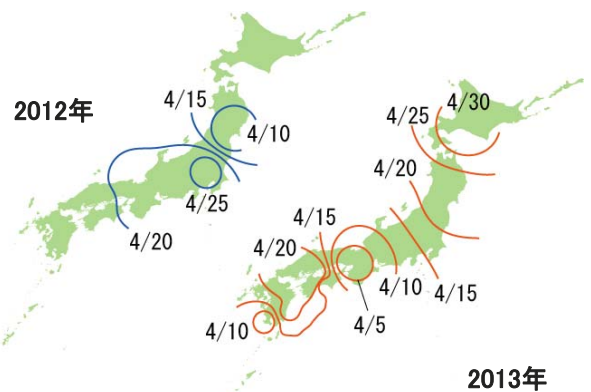


図8. アオアシシギの2012年と2013年の季節前線。

## 今後の展望

情報が無い地域は正確な評価が難しく、また近接した地点でも内陸か海沿いかなど、環境によっても渡来時期が異なります。さらには、調査日にシギ・チドリ類がたまたまいなかったということもあるので、さらにデータを増やすことで、これらの影響を少なくできるのではと期待しています。

まだ概要をとらえただけですので、今後もデータを積み重ねて、各種の渡りのパターンや渡り初めのきっかけ、移動の妨げになる要因などを明らかにしていけたらと考えています。